



女性たちの平成不況

樋口美雄、太田清ほか編著

この一冊



(日本経済新聞社・一、八〇〇円)
樋口氏は慶応義塾大学教授、著書に『日本経済と就業行動』など。太田氏は政策研究大学院大学教授。著書に『景気予測の考え方と実際』など。

員の増加の効果の方が大きい。親と同居している未婚者の生活はかつてほど楽ではない。デフレによる所得低下、上昇する教育費が、少子化を促した。夫の失業や病気という予想できなかった事態に対して、女性たちは自らが働くことで対処した。
「年齢が下の若い世代は上の世代より豊かになれなかった」ことも明らかになる。年金の世代間格差に対して、若い世代ほど豊かなのだから負担格差は当然だという考え方がある。本書の結果はこのような議論が成り立たないことを示している。

雇用、生活、幸福感…追跡調査で描く

不況で正社員が減り非正規労働者が増えているが、その多くは女性だ。

本書は、女性たちが平成不況の影響をどのように受けてきたのかを約二十人の女性を十年にわたって毎年追跡調査したデータ(パネルデータ)をもとに分析したものである。

均等法の整備によって男女の機会均等は本当に進んだのか。不況が結

婚や出産行動を変えたのか。パラサ

イトシングルと呼ばれた豊かな親と同居する未婚女性は、平成不況で変

わったのか。失業や病気といった予

想でできなかった事態に対して女性た

ちはどのように対処したのか。貧困

を経験する女性は増えているのか。

平成不況を通じて女性の幸福感はど

果よりも、平成不況による非正規社

のように変化したのか。

本書はこうした疑問についてパネ

ルデータをもとに解答を与える。ま

た、その過程で平成不況を女性たち

がどのようにくくり抜けてきたのか

を見事に描写していく。

均等法等の女性就業の制度改善効

果よりも、平成不況による非正規社

だった。正確なデータを取るために

は、人々を毎年追跡調査していくこ

とが不可欠だ。いくつかの章で重複

があったり、章ごとに文体が違い過

ぎるといった編著特有の問題はある

ものの、本書は、追跡調査の開始か

ら十年かけて得られた地道な基礎研

究のすぐれた成果である。

《評》 大阪大学教授 大竹 文雄